

吹田市学事・援助金システム標準化対応（再構築・運用保守）業務プロポーザル選定委員会
議事要旨

第1回 吹田市学事・援助金システム標準化対応（再構築・運用保守）業務プロポーザル選定委員会	
開催期間	令和8年6月18日（木） 10時30分～11時05分
開催方法	対面会議方式
案件	1. 本委員会の所掌事項について 2. 調達スケジュールについて 3. 吹田市学事・援助金システム標準化対応（再構築・運用保守）業務プロポーザル実施要領（案）について
出席者	【委員】 学校教育部 次長（委員長） 学校教育部 学務課長（副委員長） 行政経営部 デジタル政策室主幹 市民部 市民室主幹 児童部 子育て給付課課長代理 【事務局】 学校教育部学務課
議題 案件1.本委員会の所掌事項について 事務局から本委員会の所掌事項に係る説明を行った。 案件2.調達スケジュールについて 事務局から本業務の調達スケジュールに係る説明を行った。 案件3.吹田市学事・援助金システム標準化対応（再構築・運用保守）業務プロポーザル実施要領（案）について 事務局から実施要領（案）及び審査項目・配点基準表（案）に係る説明を行い、以下の議論の結果、決定事項の修正を加えることを条件に承認された。 <実施要領（案）に係る意見・回答事項>	
委員からの意見	回答及び決定事項
7（提案方法及び提案の手続）に「なお、提案書と機能・帳票等の要件に対する回答様式を含む提案書類（以下、「提案書類」という。）、プレゼンテーション及び質疑応答の中で提案した事項は、契約時に業務仕様として採用することを前提とする。」、とあ	プロポーザルで提示された提案内容は、随意契約交渉時に最優秀提案事業者との協議を踏まえて契約内容を決定することとなるため、このような記載としている。 契約交渉の過程において、提案内容の差異や認識の齟齬等により業務内容が変更となる場合で

る一方、7（5）留意事項オに「意見・提案を求めている部分について業務仕様として採用するかどうかは、契約候補者決定後、両者協議のうえ決定する。」とある。プレゼンテーションで示された提案内容は、契約時に提案どおりに採用されるのか、あるいは、最終的には契約前交渉にて、市との協議を経て決定されるのか。	あっても、プロポーザルの評価に影響が生じないこと（順位の入替え等）を確認する。業務内容に変更が生じた場合は、選定委員会に報告したうえで契約締結する。
標準化対象システムと標準化対象外システムが調達対象であるが、標準化対象システムを受託した事業者が標準化対象外システムの再構築も担うことを前提として、価格及び評価基準を設定しているとの理解でよいのか。	認識のとおりである。企業連合体として一部を別事業者が担うこととする提案は可能としている。なお、機能・帳票要件は「学齢簿編成・就学援助（標準化対象）」及び「特別支援教育就学奨励費等（標準化対象外）」で分けて作成しており、それぞれに対する回答を評価する想定である。
標準化対象外のシステムについては、本市の共通基盤上で構築するのではなく、標準化システムと同様の SaaS 上に構築されるのか。	認識のとおりである。いずれのシステムもガバメントクラウド上に構築することを要件としている。
6（2）質問の受付及び回答について、事業者から質問があった場合、質問内容及び回答は、参加表明のあった全事業者に対して同一の内容で送付する運用との理解でよいのか。	認識のとおりである。

< 審査項目・配点基準表（案）に係る意見・回答事項 >

委員からの意見	回答及び決定事項
審査評価項目のうちシステム要件の実装区分の件数等、機械的に評価点を判断できる項目であれば、委員ごとに審査結果が異なることは望ましくない。そのため、あらかじめ事務局にて、実装区分に対する回答結果を集計し、委員に情報提供いただくことは可能か。	委員の負担軽減を図るため事務局において事業者からの提案内容を確認・集計し、審査の一助になる資料を提案書配付時にあわせて提示できるよう進めたい。 機械的に評価できると考えられる項目についても明示し、委員の負担軽減を図りたい。
審査項目について、重要度を「大」としている項目があるが、特に学務課として重点的に評価する項目は何か。	学務課としては、仕様書案 3（1）概要の「市の目指す姿」に記載しているとおり、標準仕様書への確実な対応を図るとともに、標準仕様へに則った業務運用への移行及び移行後の支援を着実に

	実施できるかを重点的に評価したいと考えている。
審査評価項目の9(4)業務の引継ぎに関する要件はシステム構築において重要な観点であると考えますが、評価配点の重要度を「小」と設定した理由は何か。	当該項目は、現行システムへの移行ではなく、本業務で構築する次期システムの利用期間が令和14年度末で終了となる際の、次々期システムへの移行・引継ぎに関する内容であるため、他の評価項目との関係を踏まえ、重要度を「小」と設定した。
システム標準化後は競争性を確保することで価格の低減を図りつつ、システム切替えが可能となることが示されている。一方で、学事・援助金システムについては参入事業者が限られているため、価格の低減を図ることが難しいと推測される。そのため、次期システムから次々期システムへ移行を見据えた際、職員負担の軽減効果も重視し、9(4)業務の引継ぎの評価を高くすることが望ましいのではないか。	標準化後は、基本データリストの抽出等によりデータ移行が可能であり、システム移行にあたっては、事業者間で対応に大きな差が生じないことも想定し、重要度は「小」とした。 いただいた意見を踏まえ、事務局で評価基準について検討する。 (委員会後検討結果) 重要度は「小」のままとする。
3(5)スケジュール概要の審査ポイントに、「本市の繁忙期を考慮したスケジュールとなっているか。」との記載があるが、学務課の繁忙期はいつ頃か。また、職員負荷を考慮している事業者だと判断できるのは、提案スケジュールにどのような要素が含まれている場合か。	学務課の繁忙期は、年末年始から年度末・年度明けにかけてである。これらの期間における本市職員のテスト及び確認等の作業を避けるなど、職員負荷に配慮したスケジュールを提案できる事業者が望ましいと考えている。
学務課の繁忙期については、候補となる事業者において一定程度把握していることを前提としているとの理解でよいか。	学事・援助金業務においては、他自治体でも繁忙期は同様であるため、候補となる事業者で把握しているものと想定するが、実施要領等に明示することが望ましいと考えるため、記載方法について検討する。 (委員会後検討結果) 吹田市学事・援助金システム標準化対応（再構築・運用保守）業務仕様書案に繁忙期を記載する。

以上